



洋書史考

卷一

抄本

遠13
2475
91



2475
91

鎌倉見聞志四篇卷之廿一

目錄

一 宗尊親王の冥末の下向の事

附 右様の乃事

一 重尉の時の入道のとの是の外の事

附 内親の省の快の乃事

一 伊具入道の時の教の乃事



附 紙体刑部入道新選の表

一 お増子時頼入道改替

附 香海丸忠 原忠乃事

鎌倉見聞志四篇卷之廿一



宗高親王 暎東下向

附 お撲乃事

叔も宗高親王ハ後醍醐天皇

一乃 曾子身ハ法母ハ准后年の

朝臣 株子ハ 彦人 幼解申乃

次官 株基乃 始身ハ 仁治之身

小島仙之山徒生行建長四
年正月八日仙洞十町元
服由加冠年法二所叙也
らま加冠年友友乃
意年久少揚政殿下兼
親王中少能由菊木と
清少沙年十一歳外徳倉の

執権と神馬内親法興与重
中清少沙年一歳外
正和向外同三月十九日仙洞
と少清少六波羅中入
八葉乃清車に少六波羅
是清少一歳外
清少月御容容少武士

是も僕六者法悦ト晴〜に
多法叙を〜び法安と編ハ
分貞〜の大人會〜海と
編ハ法悦乃法悦外〜と
下悦び事分相〜勤仕の由
く小弓馬高〜ゆ〜を
今尺の手〜作後〜法中ハ

勿編徳々〜中〜法し
福〜ま〜山〜
所〜も〜入〜心比〜
法人何〜ゆ〜
重内時入道成を
時叙者悦乃復
同〜二月十日法奥与重内政

後、蜀乃信曹亭、
錦、未、成、橋、に、
巨、福、山、建、長、寺、に、
礼、一、足、性、
改、替、成、と、
高、山、橋、
新、橋、山、大、比、
己、と、
二、

寺、
亭、
山、
黄、
寺、
に、
年、
に、
満、
九、

宿禰入道之孫平因左衛尉
俊藏收又在妻入道ホク一味同
心乃取高外一軍元事外板
汝福入道成仁開一孫之孫ト
中事らなきの平因左衛尉尉
收在妻入道与人某が宅小
舎合一々汝所酒高と道し

物鏡之成い中一門之知え
かあ中一々汝所酒高と道し
中一々汝所酒高と道し
妻の俊藏收入道与人成あそく
海高成仁開一孫之孫ト
孫福化人今平一々汝所酒高と道し
入魂乃事一々汝所酒高と道し

捕之者乃其少向び白状
拷問一由が主人刑部入道
白状一由が主人刑部入道
隠し海路を所せしむる白状
世に一口して罪名定免れ死
おつて責め外しし世に世
刑部印しし由乃其のしし

吾々くししむる白人強盗
刑部印しし由乃其のしし
拷問乃其成るんしし
しししし科成自しし早
く死んし白状世に世の
其しん由しし少由しし拷問
と細しししし知しぬ事

いひ... 知... 是... ち... 義
事... 責... つか... つか... つか...
て... つか... つか... つか... つか...
状... つか... つか... つか... つか...
拷問... つか... つか... つか... つか...
小... つか... つか... つか... つか...
と... つか... つか... つか... つか...

ち... つか... つか... つか... つか...
つ... つか... つか... つか... つか...
困... つか... つか... つか... つか...
作... つか... つか... つか... つか...
取... つか... つか... つか... つか...
の... つか... つか... つか... つか...
流... つか... つか... つか... つか...

其子細とゆうのまゝに申さるゝ
一人合と云り寄
免助け新とせんしりまゆぬは福
入道らと成軍家来乃白状
と実といひい涙と流し申す
事ありし由頃某がしは具入道
小細と云りあはしういへるゝ

不審ありしと云いも今
塩巻ありしと云いも今
昔懐成と云いも今
入道もと云いも今
いふもと云いも今
命乃と云いも今
入道もと云いも今

法人令にともなひて死刑に

改定せられたるに

同九月二日紙福利院入道に

世に是れ収入の少く

年内に是れ府の

一紙に

と

一紙に流るるが今も
年内に是れまじに
まじに定むるに
改定せられたるに

お徳馬時に入道改替

青徳に是れ廉直の更

ありお徳馬時に入道改替

縁を為す事なれば
所不法師
得て沙門
あましく
多時新入
うへに
牛小好
縁を為す事なれば
所不法師
得て沙門
あましく
多時新入
うへに
牛小好

乃中
友縁
友と
か
能
も今の
縁を

あつては白濁と田畑の作物を
権法氏則とわがしむ牛尿と
せし田畑乃近こあそとつて川
乃中そとせしは権流して何の意か
しよめく新戸をくわく既と徳舎
中い名徳智妙の高僧をくわく
小くす則くのそいともく多く

つらきく去智破戒の愚僧の令
狂僧満くつめもまこと多くつら
けりく去ぬか喜時程の命を
くわく佛事権法氏妙く
けりく破戒を智の富僧の成也
集えて法をくわく実不佛は法
し持戒高徳の名僧は法をくわく

そはまゝに世傳事道徳の徳をあら
けしむるのみならず軍の首をへしとりて
二階貴信傳入道とて傳く大徳
感下実く功を著すなりと云ふは
下内親王の御事なり内親王実其
その中知道理の徳を傳へたるは
佛事とていふも善哉成事とていふ

善氏と悦ぶるも一先賢とてと救
ひを以て成り助けくも成生利
より道々なるも善哉成事の佛
支法書なる南無の人傳是成の末
ありけりとの傳へありて若も成事ハ
成事小成事なりとて成事成徳
善氏にありて道徳も成事なりとて

